

YUJI

2012年 冬

平成23年12月28日発行 (第12号)

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。

YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますよう。

<http://www.kagawa-konzouji.or.jp/yuj@kagawa-konzouji.or.jp>



日本創世、それはイザナギとイザナミの兄妹神による「国産み神話」がよく知られるところ
です。現存する日本最古の歴史書『古事記』によりますと、国産みの物語は次のように語られています。

国産み神話

創世神話

日本創世の神イザナギ、イザナミと淡路島の関係

二柱の神（伊邪那岐命と伊邪那美命）は、天の浮橋に立ち、矛を海水に下ろして、コロコロと攪き鳴らして引き上げると、矛の先より滴り落ちた海水が積もってひとつの島となりました。これを淤能基呂島といひます。

二柱の神は、その島に降り立ち、天の御柱と八尋殿を立てました。伊邪那岐命は、「あなたはこの柱を右より巡ってください。私は左から巡り、出会います。私を巡りました。」と約束し、天の御柱を巡りました。

伊邪那岐命を見つけた伊邪那岐命は、「なんと美しい女性であらうか」と声をかけ、「なんとすばらしい男性でしょうか」と返した二柱の神は、その場所で結婚をし、子供を産みました。

まずは、淡道の穂の狭別島（淡路島）、次に伊豫の二名島（四国）、隠伎の三子島（隠岐諸島）、筑紫國（九州）、伊伎島（老岐津島）（対馬）、佐度島（佐渡島）、最後に大倭豊秋津島（大和）を産んで、この八島を大八島國（日本）と呼びました。



おのころ島神社（南あわじ市）

日本書紀との比較

以上が「国産み神話」の概要ですが、国産みの順番に疑問を感じませんか。大和朝廷の基盤が置かれたのは畿内であり、始めに産まれるのは秋津島であるべきでしょう。『古事記』の記事が特殊なのでしょうか。そこで、同時代に成立した『日本書紀』の「国産み神話」の内容も確認してみましよう。

『日本書紀』の「国産み神話」の中で、淡路島に関する記事は、本文と六種の別伝が紹介されています。その内容は左の表に示

	淡路島	秋津島
書紀本文	胞	1
別伝第一	2	1
別伝第六	胞	1
別伝第七	1	2
別伝第八	1	2
別伝第九	胞	1
別伝第十	1	

したようになります。『古事記』と比べて大きく異なることは、

秋津島の順位が大きく前進していること。これは現実の秋津島の地位の反映でしょう。

さて、気になるのは淡路島にみられる「胞」の文字です。広辞苑によりますと、胞とは胞衣えいなと同義で、「胎児を包んだ膜と胎盤」とあります。つまりは、胎児である大八島を守り育む母胎そのものが胞というのです。

たとえば、別伝第八では、国産みの舞台であるオノコロ島が胞とされています。このことから、胞は国産みの基盤となるものといえそうです。そうであれば、胞であることは、国産みの始めに位置づけられる以上に重要であると考えられていたのではないでしょう。

さて、淡路島について、もうひとつ注目すべき記事が、『日本書紀』に見られます。それは、イザナギが鎮まった場所が淡路

島であるということです。

イザナミと別離したイザナギ

は、アマテラス、ツクヨミ、スサノオの三神を産むと、アマテラスに天界（高天原）を、ツクヨミに夜の世界を、スサノオに地上を任せましたが、スサノオが母であるイザナミのもとに行きたいと懇願するため、根の国へと行かせました。

神としてすべての仕事を終えたイザナギは、『古事記』によれば「淡海之多賀」に、『日本書紀』によれば「淡路之洲」に鎮座したといえます。

イザナギの鎮座した場所は、『古事記』の説をとると滋賀県いぬがみ犬上郡多賀町の多賀大社、『日本書紀』の説をとると兵庫県いづな路市多賀の伊弉諾神宮いざなぎじんぐうとなります。どちらが正しいかは古来より意見の分かれる所ではありますが、淡路島が「国産み神話」に深く影響を及ぼしていることは疑いのないことです。

もう一つの創世神話

ところで、もうひとつの「創世神話」があることをご存じでしょうか。これは『出雲国風土記』にみられるもので、国土が狭かった出雲の国に、八束水臣津野命が他の余った土地を継ぎ足して広くしたという話です。

この神話は「国引き神話」として知られ、出雲地方だけでなく、東国や大和地方にも存在していたようであり、大和朝廷を中心とする畿内にも、この「国引き神話」が創世神話として存在していたであろうことは、想像に難くありません。

またこの「国引き神話」は、日本各地の山や湖沼を造ったと言われる伝説の巨人、「ダイダラ坊」と酷似しています。つまり日本全域に「国引き」型の神話があったであろうことが想像できます。一方、「国産み神話」とは何なのでしょう。

そもそもイザナギとイザナミ像でできます。

という二神の名前に注目してみましよう。「ナギ」風」と「ナミ」波」という文字がそれぞれ語尾に認められます。つまり二神は海の神であろうことが想像できます。

実際、「国産み神話」に類似した神話は九州以南の島々などに見られ、男女の神が島を産み人類の祖先を産んだという話が残っています。つまり、海の近くで生活していた人々は、「国産み」型の創世神話を語り、その神を信仰していました。イザナギとイザナミの「国産み神話」も、もともとは淡路島の地方神話であったのではないのでしょうか。

大和朝廷と淡路島

ここで大和朝廷と淡路島の関係を確認してみましよう。淡路島は地理的な位置からも分かるように、かなり早い時期から大和朝廷と交渉があったことが想

像でできます。

『日本書紀』によりますと、淡路島は王族や中央貴族にとつて、絶好の狩猟場であったこと、さらに「御饌都国」であったことが分かります。御饌都国とは、「天皇の食膳の材料を奉る国」という意味で、とりわけ淡路島は海産物や塩を貢納する国であったようです。

また天皇の妃や国の要人を船で送迎したり、皇位継承の争いが起きたときには一方の主要戦力となつていことが確認でき、その際「淡路〇〇之海人（〇〇は地域名）」と記載されていることが分かります。

つまり、淡路島の人々は魚を採る海人であるだけでなく、軍事的な役割も担い、天皇や国の要人に近侍していたであろうことが想像できます。

このような淡路島に関する記事は、応神・仁徳・履中の三代に集中しており、四〇五世紀こ

ろ、とりわけ淡路島と大和朝廷の関係が密であったのでしよう。イザナギとイザナミ、

イザナギとイザナミは、淡路島を中心とした海人たちによつて信仰されていた神であり、彼らは大和朝廷に近侍していたことが分かりました。しかし、大和朝廷を中心とする畿内には、「国引き」型の神話が存在していたのに、なぜ淡路島の「国産み神話」を大和朝廷の神話体系にとりいれたのでしょうか。

「国引き」型の神話は、国土にある山や湖沼の成り立ちについて十分に説明できます。しかし日本の国のように、島々が点在する理由を説明するには十分なものではありません。その点、「国産み神話」の方が好都合といえそうです。

イザナギとイザナミが別離するとき、黄泉の国の住人となつたイザナミは、「一日に千人の

民を殺してしまおう」といい、イザナミは「一日に千五百人の民を産ませよう」と返しました。この場面は、あらゆるものを飲み込んでしまう荒々しい波と、その後に豊漁をもたらす穏やかな海の姿（風）そのものであるように思えます。

国土を海に囲まれた日本人にとって、海は古来より身近なものでした。その海を神格化し信仰することは、当時の大和朝廷の人々にとつても、受け入れやすいものであったのではないのでしょうか。

昨年の未曾有の大津波で多くの尊い命が奪われてしまいましたが、また多くの命を育むのも海である、と「国産み神話」は語りかけてくれているようです。



『日本神話研究 2』

伊藤清司・大林太良編
學生社



現在お稽古をしている三井古流煎茶道には、施茶と呼ばれる行事があります。

施茶とは、布施利他の修行のひとつです。布施とは「ものでも心でも、惜しみなく他者に分け与えること」で、利他とは、「自分を犠牲にしても他人に分け与えること」とあります。

現在、施茶は本山三井寺の他、四国霊場第四十三番札所で本寺と同じ天台寺門宗の明石寺にて定期的に行われています。初代宗匠は、深い慈悲の心、心づくしのお茶、美味しく喫していた、という心を忘れてはいけな

い、ということをおつしやっていたということです。

この施茶を、この度五月に当寺で初めてさせていただく予定です。心を込めて、参拝者との一期一会を有難く感じるとともに、私にとつては、普段接することのない三井古流煎茶道を様々な方に知っていただくよい機会だと楽しみにしています。

といつても、まずは同じ分会に属する先生方にお手伝いいただけるながら、始める予定です。今回のこのコーナーにて日時をご案内しますので、もし、煎茶道に興味のある方、ぜひ覗きにおいでください。また、触れてみたいという方、一緒に煎茶を煎れてみませんか。お手伝いいただける方、大歓迎です。

それでは、今回のレシピです。さつま芋をじっくり揚げたお菓子です。ほくほくと甘く、冬にぴったりのお菓子を、どうぞお楽しみください。



recipe.09 さつま芋のかりんとう

【作り方】 1. さつま芋を繊維に沿って細長く切る（長さ3センチ、厚み5mmほど）。切ったさつま芋はすぐに油（冷たいまま）をはった鍋に入れる。2. 1の鍋を強火でじっくりとさつま芋を揚げる。キツネ色に揚がったらバットに上げる。3. フライパンに砂糖と水を入れ、焦げないように混ぜながら溶かしていく。とろみがついてきたら2のさつま芋を入れて絡め、最後に黒ごまを振って出来上がり。

【材料／2人文】
さつま芋…約200g
サラダ油…適量、
黒ごま…少々
水…大さじ4
砂糖…50g



浜口育弘 (文)

浜口緑研究所代表。除草剤などで弱っていた「乃木將軍妻返しの松」を独自の研究によって元気な姿に戻す。連絡は、〒763-0065 香川県丸亀市塩屋町 2-16-17

Denny Horimizu (絵)

生まれ育ちは金蔵寺。金倉寺にて月に1度、EmaFaceを展開。似顔絵、ウエルカムボード他、ご要望があれば承っています。

<http://www.moridukuri.cho-chin.com/>

—金倉寺境内に立つ大きなスギ爺。その幹は根元から上まで煙突のようにぽっかりと大きな穴。スギ爺がんばれ。

❶ ワシもねばいで頑張っとるんやが、大風で枝葉が折れて、昔のような雄大な姿やなくなってしまう。

❷ 穴のところとうまいことほうきや熊手が納まつとるが。まるで弁慶さんの七つ道具背負いよるみたいやで。

❸ ゴロハチか。相変わらず軽口叩きよる。これまで、痛い言わんと我慢してきたんやが、さすがに葉の量が少のうなってしまう。これでは、頼みの花粉を飛ばすことも通わん。

❹ その幹やともう末期やな。大風で枝葉も折れよるし、そろそろ横になつたらどうな。

❺ 仁王さんやお不動さんがじっと立ってるのに、ワシだけ横着するわけにいかんが。

❻ あんたは偉い。前から思とつ

たけど、具合が悪いのに何十年も立ってるんは、スギ爺と着物姿の乃木さんくらいや。

—乃木さんは寝るときも軍服で過ごした軍人さんです。って、余計なことは言わない。

❶ ゴロハチ、あんた門前のサクウ親父を元気にしたんやろ。ワシもひとつ頼めんやろか。前向きに頑張るさん。

❷ あんたほどこっけいな体もようけないで。やけどスギ爺、あんたが元気になつたら、他のスギたちもその方法で救えるはずや。いつちよやつたるかい。

—でました。ゴロハチの魔法の聴診器。ゴロハチはさつそくスギ爺に必要なものを与えます。

❸ おかしいのお。理論と合わへんが。ほれ、スギ爺、しっかりとせんか。

❹ イタタタ…、また大枝が折れてしまった。さすがにもういかなのかのお。

❺ どうにもならんときは、ばた

ばたせんと思索するんや。いろんな角度から考えることも肝要やが、その先にある真実を見抜くことが重要や。

❶ 和尚、またうまいこと言うで。理論と実際が合わん現状の先にある真実を見抜くんや。あくまで冷静に対応するで。

❷ ゴロハチ、なんや体がムズムズしてきたで。

❸ そうやろ。あんたの体中にあつたひび割れを繋いだんや。養分の流れる道が太おなつたはずやがな。

❹ ワシも若いモンの仲間入りか。ゾクゾクしてきたが…

❺ サクラ親父も同じこといいよつたで。スギ爺、よかつたなあ。

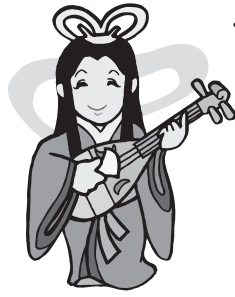
❶ スギ爺はイヤ。これからはスギ兄と呼んでくださる?

❷ えらいこつちや。サジ加減間違えたんやろか…

❸ コラコラ…。スギ兄も元気になつたということで、何はとも

あれ、めでたしめでたし?

気になる？ 気になる！



その 11、弁天さん

弁天さまとしてなじみのある弁財天は、七福神の中で唯一の女性神で、元来はインドのサラスバティーという大河の女神です。日本には、仏教とともに入ってきたのですが、当初は「弁才天」といわれ、あくまでも学問・弁舌・学芸の女神でした。また、密教系では、琵琶を持ち弾いておられる姿から、インド同様音楽の神様とされました。

ところが、いつのまにか福德を授け、財物を与えてくれる神様が変わってしまいました。即物的なご利益を授けてほしいといった日本人の願望が、この女

神を変貌させたのか、その理由はわかっていません。

ともかく、「弁才天」から「弁財天」へと変貌すると、逸話が広がります。まず、蛇は弁天さまのお使いとされ、巳の日が弁天さまの縁日となりました。そして、巳の日には弁才天にお参りすると財産を得る事が出来るという話になり、蓄財の神として信仰されるようになったのです。

ちなみに、弁天さまは、元来インドの河神であることから、日本でも、水に深い関係のある場所に祀られることが多いようです。従って、当寺の弁天さまも、それを意識した場所にお迎えしています。弁天さまの歴史を参考に、どうかそれぞれの思いを持ってお参りください。



『信ずる心 福神信仰』
ひろさちや 集英社

円珍さんの長安でのもうひとつの大きな任務は、大曼荼羅像の図絵を依頼することでした。絵師には宮廷の画工であった刁慶を雇い、検閲には伝法和尚であった法全があたり、事務的なことには円覚があたりました。

この大曼荼羅像も完成し、円珍さん一行が長安を発つたのは、大中九年（八五六）十一月二十七日のことでした。その一行には円覚の姿もありました。

その後、洛陽に一月ほど滞在した一行は、天台山国清寺への帰路につきました。道中、越州開元寺に立ち寄った円珍さんは、



その 11、円珍さん⑩

良諍と別れの挨拶をし、天台山国清寺に帰り着いたのは六月四日のことでした。

この地で円覚と別れた円珍さんは、日本からの求法僧の備えとすることを願って、国清寺境内に止観堂と僧坊の建設に着手しました。この止観堂が完成したのは九月七日のことで、国清寺では「天台国清寺日本国大徳僧院」と呼ばれました。

その後の国清寺に留まった円珍さんは、およそ二年の月日の大部分を手に入れた經典類を精査し、さまざまな論書と照らしあわせ、撰述書を著すといった修学の時間にあてました。

こうして多くの成果を手に入れた円珍さんが帰朝したのは、天安二年（八五八）六月二十二日のことでした。



『人物叢書 円珍』
佐伯有清 吉川弘文館

逆打ち遍路

今年(うらうとし)は四年に一度の閏年。閏年といえばオリンピックの年といったイメージがあります。が、四国霊場にとつても特別な一年になります。実は閏年に四国霊場を逆の順に(八十八番↓八十七番↓…)巡拝する(逆打ち)と、いつもの年の数倍ものご利益がある、と言われていたからです。



なぜこのように言われているのでしょうか。それはお遍路さんの初代ともいわれる衛門三郎の伝説が関係しています。

衛門三郎は弘法大師と会うために二十度四国霊場を巡礼しましたが会うことができず、二十一度目に逆に巡ったところ、とうとう弘法大師と会うことができました。その年が閏年であつたといわれています。

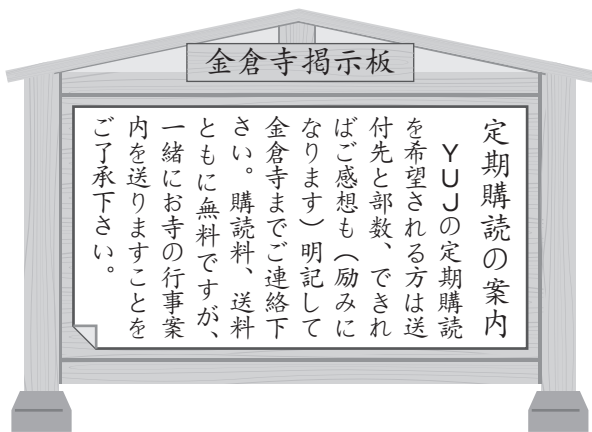
この伝説がもとで、閏年の逆打ち遍路はいつもの年の数倍のご利益があるとも、お大師さまに会えるともいわれています。

さらに今年度は、讃岐国限定で、納経された方に記念散華をお渡しいたします。この散華には梵字が一つずつ印刷されており、讃岐国二十三霊場を巡ると光明真言が完成するようになっていきます(写真の台紙は千円)。今年の四国巡礼は、逆打ち遍路に挑戦されてみてははいかがでしょうか。

弁財天の安置

前回のYUJで弁財天さまをお迎えするとお伝えしておりましたが、昨年末に弁財天が安置されました。金倉寺へ参拝の際はぜひお詣りください。また力ラーの御影を納経所にて二百円でお授けしています。

弁財天さまについて、詳しくは「気になる? 気になる!」をご覧ください。



■編集後記

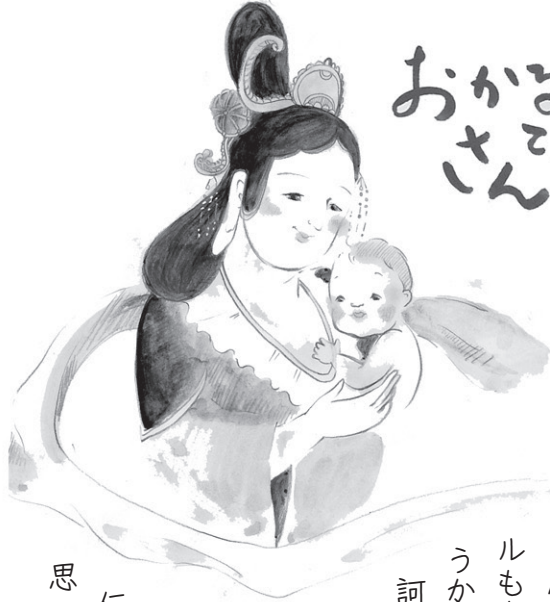
哲済 今回のテーマは「創世神話」。ぜひ新年に取り上げてみたいテーマで夏頃より温めてました。書き出したのは一週間ほど前からですが、

けど、またまた神さまの話になっちゃった：「気になる? 気になる!」も、「弁天さま」やったし、今回のYUJは神さまづくしやね。「お寺にある素敵なもの」を、発信していきたい」って書いてあるのに、どうしてこうなるのかなあ：次号はまた仏教の話にします! 取り上げて欲しいテーマがあれば是非お便りを。

哲済

平成二十三年十二月二十八日発行
編集・発行 金倉寺
発行人 村上法照
お問い合わせは
千七六五〇〇三二
香川県善通寺市金蔵寺町一一六〇
TEL〇八七七一六二一〇八四五
yuj@kagawa-konzouji.or.jp

おかるさん



なかなか子供が授からなくて、訶利帝堂に足を運ぶカップルには、いろいろな方がいらっしやいます。

初めは緊張のせいかな言葉少なだった方も、お話をするうちに、すつきりされた様子で帰る方、たまっていたものを押し出すかのように涙を浮かべる方など。いづれにしても、日常でいかにこの特有の悩みをはき出す場が限られているかを実感します。

パソコンで検索すればするほど情報は溢れ出し、かえって不安が増してきます。かといって、周りに相談できるような話でもない。そうやって、どんな追い詰められるカップルも多いのではないでしようか。

訶利帝堂は、そのような方々が少し落ち着いてお話ができる、気分転換になる空間になれば、そして、少しでも私たちがそのお手伝いができればいいな、と思っています。

日	月	火	水	木	金	土
				1	戌の日	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	戌の日	15	訶利帝母縁日	17
18	19	20	21	22	23	24
25	戌の日	27	護摩供	29	30	31

三月 弥生

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	戌の日
8	9	10	11	12	13	14
15	訶利帝母縁日	17	18	戌の日	20	21
22	23	24	25	26	27	護摩供
29	30					

四月 卯月

日	月	火	水	木	金	土
初護摩供	戌の日	初護摩供	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	戌の日
15	訶利帝母縁日	17	18	19	20	21
22	23	24	25	戌の日	27	護摩供
29	30	31				

一月 睦月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	戌の日	8	9	10	11
厄除祈願				訶利帝母縁日	17	18
12	13	14	15			
戌の日	20	21	22	23	24	25
26	27	護摩供	29			

二月 如月



訶利帝母縁日

毎月16日午前10時から午後2時まで訶利帝堂内に参拝できます



不動尊護摩供

毎月28日午前11時から本堂にて護摩祈願を行います(12月は除く)



着帯戌の日

戌の日の午前11時と午後2時より安産祈願を行います(行事などによる変更あり)